外国人労働者が働きやすい環境のために

3年４組3番　今里　有伽

【はじめに】

私の志望している大学には外国人留学生がたくさんいます。多くの外国人の方と話したい、そして将来私は留学をしたいと考えています。その時に彼らのことをより理解したいし、日常で他文化や考え方を受け入れ、交流を深め続けたいと思ったので「グローバルが生み出す力」のゼミを選択しました。始めた時は、絶対にこれというやりたいことが明確にはなく、少しずつビデオでの世界中の貧困問題や、安い賃金で働かされている労働者の方、また国での時間の使い方の違いから生じる問題などの学習から少しずつ多文化についてもっと理解したいと思うようになりました。そこで異文化というテーマに絞って探究することにしました。

まず異文化というと何を思い浮かべるかと私が考えたのは、日本は食事の時にお箸を使って食事をしますが、インドでは手を使って食事をすることや日本は家には土足で入らず靴を脱いでから家に上がるなどのように「日本と外国における文化の違い」を思い浮かべていました。

ですが異文化というのは「日本にも存在する」ということに気づきました。例えば関東と関西では方言が異なっていることなどが挙げられます。このように年齢や性別、国などを問わずに生まれているものだということが分かります。それらを理解しようとするときには、よく耳にするカルチャーショックにぶつかります。これらは食生活や道具など目に見える明らかな文化的な違いではあまり起こらずに、海外に長く滞在し人間関係が深まるほど考え方や習慣、社会の仕組みの違いが鮮明になり、カルチャーショックの度合いが高まると言われています。海外は日常を送っていく中で見ない、感じない、触れないことがより多いので高まると思いました。実際に私が海外に旅行に行った際に感じたカルチャーショックは、食事のときのお水です。日本だとお店側が無料でお水を提供してくれますが、お水を注文するものとして料金が発生します。またスーパーでは、お菓子をお会計が終わっていなくてもそれを口にしても良いということです。それに加え道にゴミをポイ捨てすると、罰金が課せられます。これは環境を綺麗に保つというプラス面でのカルチャーショックだと言えます。またこのようなことをクリティカルインシデントとも呼ばれています。そしてこれらが衝撃的に感じるのには理由があるということを頭に入れとかなければなりません。日本人はよく謝ることやお礼などをしすぎと言われることがありますがこれは日本の習慣のようなもので無意識に行われているという理由があります。このようなことを理解した上での異文化コミュニケーションが行えると思います。

【序論】

私は2年生の時に大分県別府市の立命館アジア太平洋大学で、実際に在学している留学生と英語でお互いにプレゼンテーションをするという交流に参加しました。その中で韓国出身の方が韓国の魅力を語ってくれて、はじめて知る魅力が多く印象的だったのを覚えています。私は異文化コミュニケーションというテーマでプレゼンテーションをしました。まずは日本で外国人がカルチャーショックを受けやすい例として上げたのは、敬語が会話時に使われているところ、平仮名、カタカナ、漢字と字体が多いため看板などが読みづらいことなどです。また日本と外国の文化の違いを表すプレゼントの開け方に注目すると、アメリカ人は、豪快に包装を開ける、そうすることで喜びを表す。それに対しては、日本人は丁寧に開けて喜びを表すという例をその時に上げました。留学生からの声は日本人も豪快に開けると思うという意見が出て、育った環境や、今までに見てきた感じてきたこと、実際の周りの環境がその人に根付く文化が習慣になっていくと思いました。また実際に聞くことで新たな発見が出来たのでインタビューはとても情報集めに効果的なんだと感じもっと活用していきたいと感じました。

【本論】

そのようなことからより外国人の方について深く知りたいと思い、外国人労働者の方々について焦点を当てていくことにしました。これに至った経緯として国際高校におられるALTの先生や、外国人労働者が多く雇っている企業が外国人労働者にとって働きやすい環境なのかという疑問とその環境をよりよくするためには何が必要で私たちに出来ることは何なのかを明らかにしたいと思ったからです。まずは実際に仕事場の環境についてどのように感じているか、またより良い環境作りをサポートしていきたいと思ったからです。

今の日本の外国人労働者の現状について、そもそも日本では少子高齢化が進んでいて外国人の方々が日本の人不足を解消すると考えられています。より正確な情報を得るために実際に外国人労働者の方々を雇っているオーブンという会社で、アニメ好きで日本に興味を持っている女性の方、ITのことを学べるこの会社に興味を持ち入社した男性1人の方にインタビューをすることにしました。

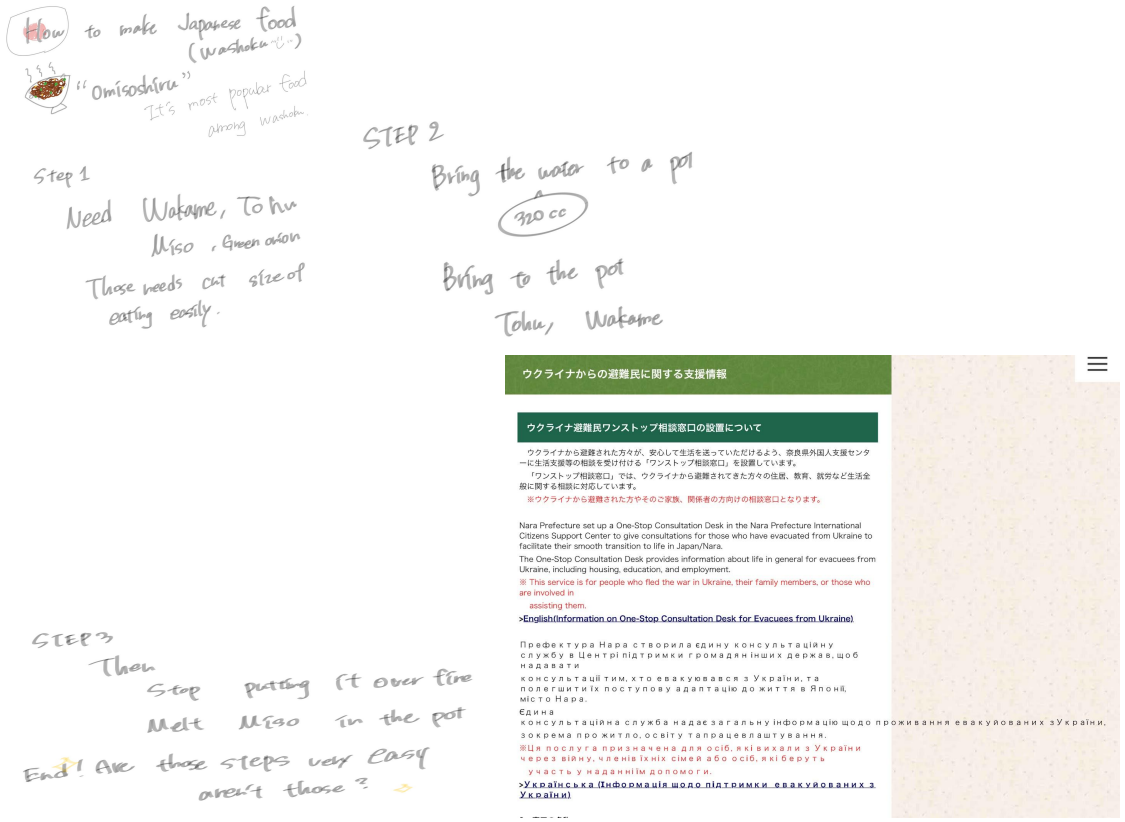
実際に経験したトラブル、会社に改善してほしいこと、どうやって日本語を勉強したのか、この3つの質問をしました。1つ目には、言語の問題があった事です。習得が難しく、書類の記入時に困ったと仰っていました。2つ目の質問には、特には無いが、女性の方はさらに日本に女性が活躍してほしいという希望を仰っていました。3つ目の質問には、会社の中で授業があり、また、たくさんの外国人の同僚の方から教えてもらうなど、オーブンでは月に一万円を全員の社員へ支給してレッスンなどに使える制度あるのに加え、基本のことであり最も大切なことの、国籍関係なく個人としての才能をしっかり見て採用することが徹底されています。このようなことからとても働きやすい環境と言えます。また他の企業では、祝日の日を有給休暇として使えるようにするなど画期的な取り組みが行われています。

もっと身近に少しでも外国人の方をサポートしてくれる情報が集まっているものはないかと探していた時にMusubu Connectというアプリを見つけました。

国内では少子高齢化により労働人口が減少する一方で、外国人労働者が年々増加しており、外国人の雇用が人手不足解消の一端を担うと期待されています。2019年には、一部の産業分野における人手不足に対応することを目的に、一定の専門性・技能を有する外国人を対象とした新たな在留資格である「特定技能」が創設され、今後も外国人労働者の増加が見込まれます。また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う、外国人の新規入国制限が2022年3月1日から緩和されたことを受けて、改めて外国人労働者への期待が高まっています。しかしながら、日本の生活環境に慣れていない外国人が、生活に必要な情報を自分で収集したり、日本の文化やマナーを習得したりするのは容易ではなく、就労環境以外の支援が不可欠です。そこで受け入れ企業や関連団体には、技能実習生や「特定技能」の有資格者に対して、日常生活または社会生活を送る上で必要な支援をすることが求められ、企業としてもこれらの支援に取り組むことが外国人労働者の定着・確保の観点で重要ですが、支援施策の工数や負担が課題となっています。ソフトバンクは、「Musubu Connect」の提供を通して、外国人労働者の自立や安心で安全な生活・就労環境と、受け入れ企業の負担軽減に貢献することを目指します。初めはこのアプリをSNSを使ってたくさんの人に知らせたいと思っていましたが難しいということになり、このアプリは9つの機能があり、生活マナー学習コンテンツ、災害情報の通知など、画期的な機能がありますが、まだ個人で使われた事例がなく、会社向けでしか使われてないと言うことを知り、また対応言語も少ないという問題があります。

このアプリをヨーロッパの方などにも広める提案をしました。次に私たちにできることは何なのかを考えたところ、自分たちで作る日本で役立つ情報を日本にいる外国人の方に広めようということでした。希望としては不安の思いもある中ウクライナから避難目的で日本にやってくるウクライナ人の方々向けということになりました。今現在ファミリー共同のTwitterアカウント(@cabin_kokusai)でウクライナの方向けに日本語、ウクライナ語で日本での生活が困らないように基本的な役立つ情報を更新しています。例えばお箸の持ち方を表などで表す、室内では靴を脱ぐ、日本ではまだ外でマスクを基本的にはつけたままにしておく、時間を守るようなことです。また簡単な日本料理の作り方もあると日本での楽しみが増え、文化に触れる機会を増やすことができます。

さらには日本文化、着物を着る体験、お正月など日本特有の文化にも触れることができるイベントの発信なども面白いと思っています。



奈良県、他府県でも多くの取り組みがされています。奈良県では相談窓口を設けて心の支えになるような取り組みが行われています。長時間空いており、自分の相談しやすい時間で相談することができます。

他府県の取り組みとして長野県では、ウクライナ避難民を温かく受け入れ、安心して生活がお送れるようサポートするとともに、今後長期化も見込まれる避難生活をフォローし、生活、就労、就学全般にわたる更なる支援を実施するため、グラフファンディング型のふるさと信州寄付金を募集しています。連帯の意思を示すために職員が国旗柄のバッチを着用しています。また、市役所ではウクライナの国旗を掲げています。

さらにもっと身近なものでは楽天からチャリティーTシャツがあり、集まった金額は5000万円を超えています。

【結論】

私たちが目指すのは女性の方がより活躍し、実際に起きている問題、外国人労働者の方たちが活躍したいと思ってもらえるように、そのためにはもっと現状を知って、発信していくことです。

具体的には今行っているTwitterの発信を続けたいと思います。今でもウクライナだけではなくたくさんの外国人の人々が辛い思いをしています。私達がこれから考えているのは、誰でも見て分かるような取り組み、日常から活用できるような情報が分かるポスターを作成して、それをTwitterで拡散し、暮らしやすい日本を提供することで異文化理解や異文化コミュニケーションを通して国同士の関係を深めて行けたらいいなと思っています。

【おわりに】

私が探究を通して学んだこととしては、まず多文化を通して日本との異文化からのギャップを知れたのと、そのような場面にこれから大人になるにつれ増えていくと思うので受け入れる、理解することには、いろんな多文化を自分から知っていくことを心がけることです。

触れていくことで感じたことなどを互いに共有していくということもとても重要な事だと思います。これからは、自分が行っていきたいこととしては、序論でも述べたようにたくさんの外国人の方と触れ合う機会が増えていくので一瞬理解が難しい文化の一面があったとしても初めて知れた、自分の世界や、視野を広げられたというようにプラス面で物事を捉えられるような考えを深く持っていきたいと思います。自分が成長したこととしては、多文化から起こる国際問題の解決に向けてどういうふうに考えれば解決に向かっていけるかに行動することです。まだまだ発信など自分たちにできることは何かを考え続けて、将来さらに役立てられるように多文化について探究活動を続けたいと思います。

【参考文献】

ウクライナ避難民ワンストップ相談窓口の設置について
https://www.pref.nara.jp/60752.htm

性別・世代間にも存在する異文化コミュニケーション
https://www.kokusai-enkaku-kyoiku.co.jp/column/03-ibunkacommunication-system

外国人労働者の生活や学習をワンストップで支援する
スマホアプリ「Musubu Connect」を企業向けに提供開始
https://www.softbank.jp/corp/news/press/sbkk/2022/20220329_01/

ウクライナ避難民受入れに関する情報
https://www.pref.nagano.lg.jp/kokusai-kouryu/ukraine-evacuees2022.html